

現在、名古屋大学では新型コロナウイルス感染症対策として「換気」が呼びかけられている。「名古屋大学学生の皆様へ（日常生活）」には、「3密回避，マスク着用（不織布製を強く推奨），手洗い，アルコール手指消毒，換気の徹底を。」という言葉がある。法学部棟には右図のような張り紙があり、授業中であれ休み時間であれ窓が開け放たれている。しかし今後厳しい冷え込みが予想されるなかでこれらの対策をとり続けることは、節電の観点から



非合理的であると考えられる。また現在の換気システムは学生にとっても悪影響を及ぼす。第一に、特に真冬の過度な換気には教室の気温を低下させ、授業の妨げとなり得る。事実、昨年度、私が全学教育棟で言語科目を履修していた際は厚着のコートを着込んでいても窓から吹き込む風の冷たさに手指が悴んで文字が書けない程であった。第二に、例えばアクセスポイントとして開放されているACフォーラムがあまりの寒さで利用できず、オンライン授業を受講する場所に迷う声が聞かれたことがある。コロナ対策の重要性は理解しているが、節電の観点も取り入れるならば、三年目を迎えるコロナ禍においては基準の改訂を行うべきであろう。

厚生労働省は、商業施設等の冬場の換気について「換気機能を持つ冷暖房設備や機械換気設備が設置されていない、または換気量が十分でない商業施設等は、以下に留意して、窓を開けて換気をしてください。居室の温度および相対湿度を18℃以上かつ40%以上に維持できる範囲内で、暖房器具を使用しながら、一方向の窓を常時開けて、連続的に換気を行うこと。……。」と述べる。また、ダイキン工業(株)によれば、エアコンをつける前に窓を開けて換気をすると、床や壁、天井が冷え、部屋の中が暖まりにくくなるという。更にエアコンの温度は、1℃下げること約5～10%の節約に繋がるという。名古屋大学においては冬場においても8時30分頃から双方向の窓が開放されており、厚生労働省が呼びかける気温や湿度に達していないと思われる。故にこれらの情報から、新たな基準として以下のことを、段階的、選択的に提案する。

- ①エアコンの換気機能を常時使い、窓開けは行わない。暖房の温度を一度下げる。
- ②授業中に学生によって窓を開ける時間を設け、それ以外は閉める。暖房の温度を一度下げる。
- ③講義室において一方向のみ窓が開いている状態(窓を開けて廊下側の扉を閉めるなど)を継続する。暖房の温度を一度下げる。
- ④その他、双方向の窓から常時換気する以外の方法を選択する。暖房の温度を一度下げる。

参考

名古屋大学学生の皆様へ（日常生活） https://www.nagoya-u.ac.jp/info/upload_images/20211210_daily.pdf

冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15102.html

暖房の設定温度は何℃が理想？秋冬でも電気代を節約しながら快適に過ごすコツ | DAIKIN ストリーマ研究所 | ダイキン工業株式会社 <https://www.daikin-streamer.com/article/020.html>

暖房中の換気が特に大切な今季…空調のプロが説く効率的な換気術「部屋暖まったら窓開ける」が正解なワケ | 東海テレビ NEWS https://www.tokai-tv.com/tokainews/article_20201111_147383